

調布市

子どもの生活実態に関する調査
(ヤングケアラー実態調査)

報 告 書
(概 要 版)

令和5年3月

調布市

目 次

1	調査の目的と方法	1
(1)	調査の背景と目的	1
(2)	調査の対象と方法	1
(3)	調査期間	1
(4)	配布・回収状況	2
◆	調査結果の見方について	2
《参考》	ヤングケアラーのイメージ（例）	3
2	調査結果の概要	4
(1)	世話をしている家族の有無	4
(2)	世話をしている相手	4
(3)	世話を必要としている理由	5
(4)	世話をしている頻度	6
(5)	世話をしている時間	6
(6)	世話をすることによる生活への影響	7
(7)	世話について感じていること	9
(8)	支援してほしいこと	9
(9)	希望する相談方法	11
(10)	ヤングケアラーという言葉の認知	12
(11)	ヤングケアラーの自覚	12
3	調査のまとめ	13

1 調査の目的と方法

(1) 調査の背景と目的

ヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負うことで、本人の育ちや教育に影響があることから、実態の把握及び支援の強化が求められている。

本調査は、調布市におけるヤングケアラーと思われる子どもに関する状況を把握し、ヤングケアラーと思われる子どもの早期発見・支援につなげる仕組みづくりの検討を行うため、小中学生、及び高校生・大学生世代に対して実態調査を実施した。

(2) 調査の対象と方法

調査対象	対象者	調査方法
小学生	市立小学校 5年生、6年生児童	インターネット回答のためのQRコードを印字した依頼状を学校で配布し、学習用タブレット端末を用いて、学校にて回答。
中学生	市立中学校 全生徒	インターネット回答のためのQRコードを印字した依頼状を学校で配布し、学習用タブレット端末を用いて、学校にて回答。
高校生世代	令和5年1月4日時点で市内に住所登録のある高校1・2・3年生世代の市民	インターネット回答のためのQRコードを添付した依頼状を郵送配布し、個別のスマートフォンやタブレット端末等で回答。
大学生世代	令和5年1月4日時点で市内に住所登録のある大学1・3年生世代の市民	インターネット回答のためのQRコードを添付した依頼状を郵送配布し、個別のスマートフォンやタブレット端末等で回答。

(3) 調査期間

小中学生：令和5年1月25日～令和5年2月6日

高校生・大学生世代：令和5年2月13日～令和5年2月28日

1 調査の目的と方法

(4) 配布・回収状況

調査の種類	配付数	回収数	回収率
小学生調査	3,615	2,865	79.3%
中学生調査	4,502	3,409	75.7%
高校生世代調査	5,681	1,123	19.8%
大学生世代調査	4,590	628	13.7%

◆ 調査結果の見方について

- 集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値(%)を全て合計しても、四捨五入の関係で100%にならない場合がある。
- 複数回答の場合、回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、各選択肢の割合を合計すると100%を超えることがある。
- クロス集計などの表では、特別の表記がない限り、上段が実数、下段が%(小数点第1位まで)を表示している。
- 回答結果を見やすくするために、グラフや表等で回答のなかった選択肢や無回答など一部の項目を省略している場合がある。
- 一部の設問では、国が行った調査*との比較を行っている。設問文は本市のものを表示しているので国の文言と異なる場合がある。

※国が行った調査

小学生調査＝小学生の生活についてのアンケート調査(令和3年度)

中学生調査＝中高生の生活実態に関するアンケート調査(令和2年度)

高校生世代調査＝同上

大学生世代調査＝大学生の生活実態に関するアンケート調査(令和3年度)

《参考》ヤングケアラーのイメージ（例）



しょうがい びょうき
障害や病気のある
かぞく か 家族に代わり、買い物・
りょうり そうじ せんたく
料理・掃除・洗濯など
かじ の家事をしている。



かぞく か おきな
家族に代わり、幼
いきょうだいの
せわ 世話をしている



しょうがい びょうき
障害や病気のある
いきょうだいの世
わねみまも 話や見守りをして
いる



め はな かぞく
目を離せない家族の
みまも こえ
見守りや声かけなど
の気づかいをしている



にほんご だいいちげんご
日本語が第一言語で
かぞく しょうがい
ない家族や障害の
かぞく
ある家族のために
つうやく
通訳をしている



かけい きさ
家計を支えるため
に労働をして、障
るうどう 害や病気のある
しょう 家族を助けている



アルコール・やくぶつ
アルコール・薬物・
ギャンブル問題を
かか 抱える家族に対応
かぞく たいおう
している



がん なんびょう せいしん
がん・難病・精神
しつかん 疾患など慢性的
びょうき 慢性
な病気の家族の
かんびょう
看病をしている



しょうがい びょうき
障害や病気のある
かぞく み
家族の身の回り
のせわ
の世話をしている



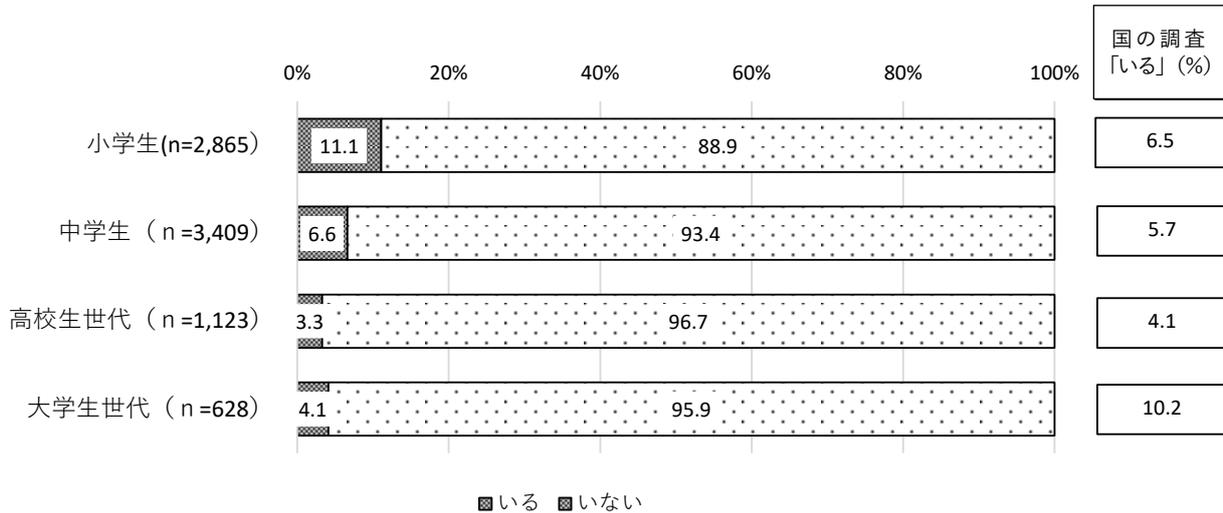
しょうがい びょうき
障害や病気のある
かぞく にゆうよく
家族の入浴や
かいじよ
トイレの介助をし
ている

イラスト出典元：厚生労働省ホームページ

2 調査結果の概要

(1) 世話をしている家族の有無

世話をしている人が「いる」と回答したものは、小学生が11.1%と最も多い。
 (大学生世代は、「現在いる」と「現在はいないが、過去にいた」の回答の合計)



(2) 世話をしている相手

小学生、中学生では「弟・妹」が、高校生世代では、「きょうだい」が、大学生世代では「祖母・曾祖母」が最も多い。

	母	父	祖母・ 曾祖母	祖父・ 曾祖父	兄・姉	弟・妹	その他 の人	無回答
小学生 (n=317)	18.0	13.6	7.6	3.5	5.7	47.6	7.9	24.3
中学生 (n=225)	10.2	8.9	6.2	1.8	4.0	37.8	8.4	36.0
高校生世代 (n=37)	16.2	10.8	5.4	5.4	37.8 (きょうだい)		8.1	37.8
大学生世代 (n=26)	19.2	7.7	23.1	11.5	19.2 (きょうだい)		11.5	26.9

(3) 世話を必要としている理由

【小学生調査】

お世話の相手が母・父では「わからない」、祖父母・曾祖父母では「高齢のため」、兄弟姉妹では「おさないため」が1位となっている。

	母・父 (n=61)	祖父母・曾祖父母 (n=25)	兄弟姉妹 (n=167)	その他の人 (n=25)
1位	わからない 62.3	高齢のため 56.0	おさないため 74.3	その他 48.0
2位	介護が必要 11.5	介護が必要 32.0	わからない 12.6	わからない 32.0
3位	その他 11.5	わからない 32.0	その他 9.6	おさないため 24.0

【中学生調査】

お世話の相手が祖父母・曾祖父母では「高齢のため」、兄弟姉妹では「幼いため」が1位となっている。

	母・父 (n=32)	祖父母・曾祖父母 (n=16)	兄弟姉妹 (n=92)	その他の人 (n=19)
1位	その他 31.3	高齢のため 50.0	幼いため 78.3	その他 68.4
2位	病気やけがのため 18.8	認知症のため 43.8	その他 12.0	幼いため 21.1
3位	介護が必要 15.6	介護が必要 37.5	知的障害のため 8.7	高齢のため 10.5
	認知症のため 15.6			介護が必要 10.5
				知的障害のため 10.5
				日本語が苦手なため 10.5

【高校生世代調査】

お世話の相手が祖父母・曾祖父母では「高齢のため」及び「認知症のため」、兄弟姉妹では「幼いため」が1位となっている。

	母・父 (n=7)	祖父母・曾祖父母 (n=4)	兄弟姉妹 (n=14)	その他の人 (n=3)
1位	その他 71.4	高齢のため 75.0	幼いため 50.0	高齢のため 33.0
2位	こころの病気のため 42.9	認知症のため 75.0	その他 28.6	介護が必要 33.0
3位	その他の病気やけがのため 28.6	介護が必要 25.0	知的障害のため 14.3	認知症のため 33.0
		こころの病気のため 25.0		こころの病気のため 33.0

2 調査結果の概要

【大学生世代調査】

お世話の相手が母・父では「こころの病気のため」、祖父母・曾祖父母では「認知症のため」が1位となっている。

	母・父 (n=7)	祖父母・曾祖父母 (n=8)	兄弟姉妹 (n=5)	その他の人 (n=3)
1位	こころの病気のため 57.1	認知症のため 75.0	その他 60.0	その他 66.7
2位	その他 28.6	高齢のため 50.0	幼いため 40.0	こころの病気のため 33.0
3位	身体障害のため 14.3	介護が必要 25.0		
	その他の病気やけ がのため 14.3	身体障害のため 25.0		
	日本語が苦手なため 14.3			

(4) 世話をしている頻度

世話をしている頻度はいずれの世代も「ほぼ毎日」が最も多い。

	ほぼ毎日	週に 3～5日	週に 1～2日	1か月に 数日	その他	無回答
小学生(n=317)	39.7	14.8	13.9	7.6	3.2	20.8
中学生(n=225)	35.1	10.7	10.7	7.1	3.1	33.3
高校生世代(n=37)	29.7	18.9	5.4	10.8	0.0	35.1
大学生世代(n=26)	42.3	15.4	11.5	7.7	3.8	19.2

(5) 世話をしている時間

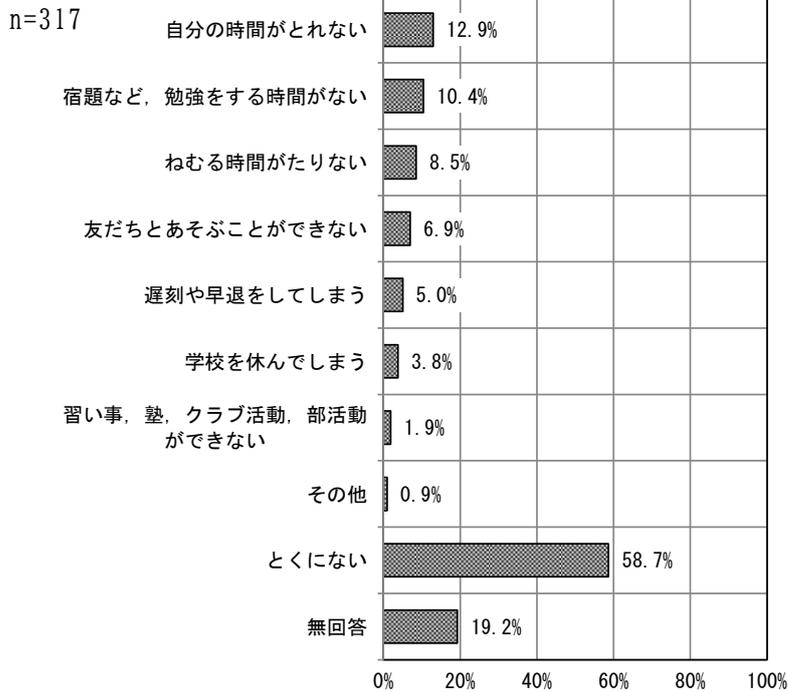
世話をしている時間はいずれの世代も「2時間未満」が最も多い。

	2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上	その他	無回答
小学生(n=317)	46.7	13.6	7.9	7.9	0.6	24.0
中学生(n=225)	37.8	12.0	6.2	7.1	0.4	36.4
高校生世代(n=37)	32.4	24.3	0.0	2.7	0.0	40.5
大学生世代(n=26)	42.3	15.4	3.8	11.5	0.0	26.9

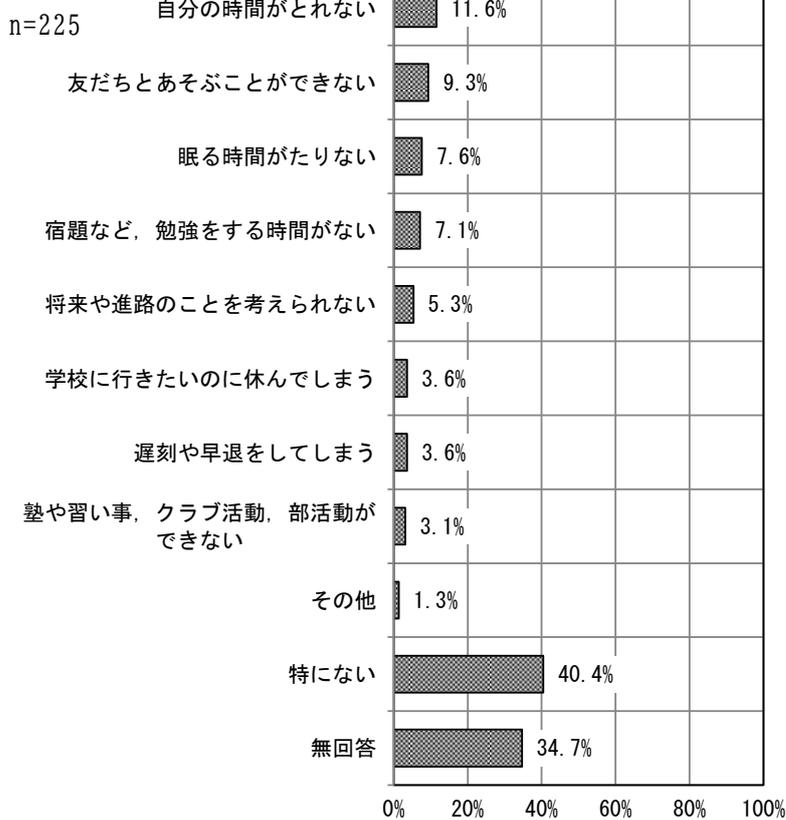
(6) 世話をすることによる生活への影響

いずれの世代も「自分の時間がとれない」が最も多い。

小学生調査



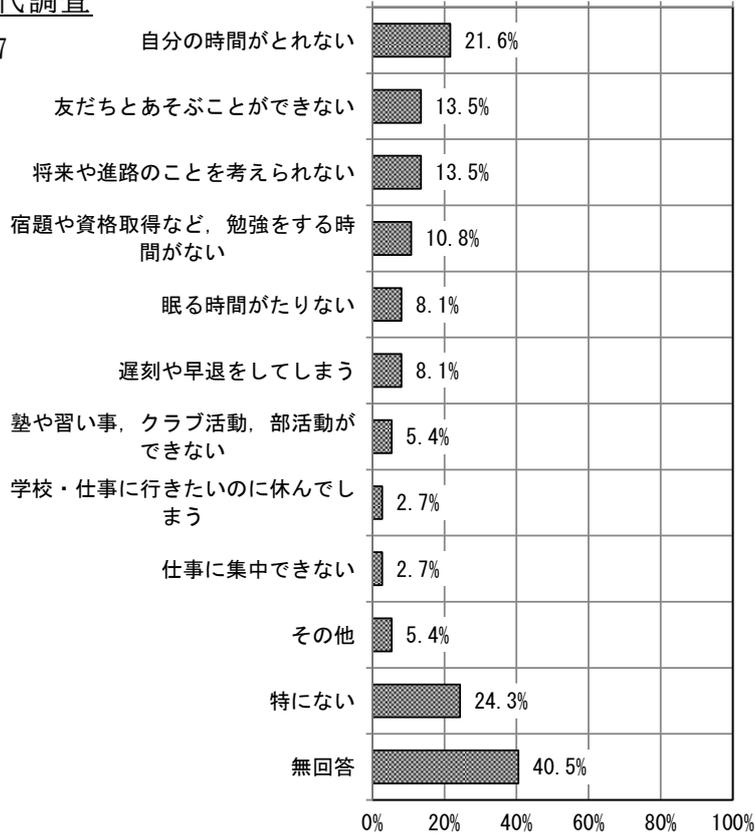
中学生調査



2 調査結果の概要

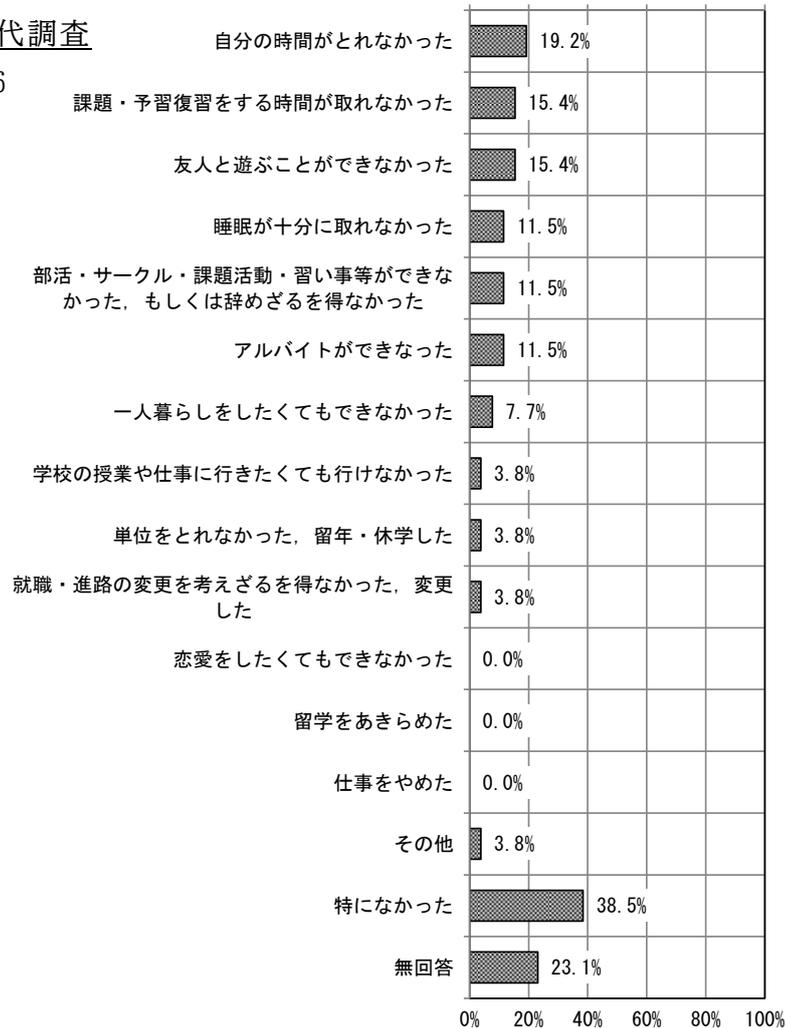
高校生世代調査

n=37



大学生世代調査

n=26



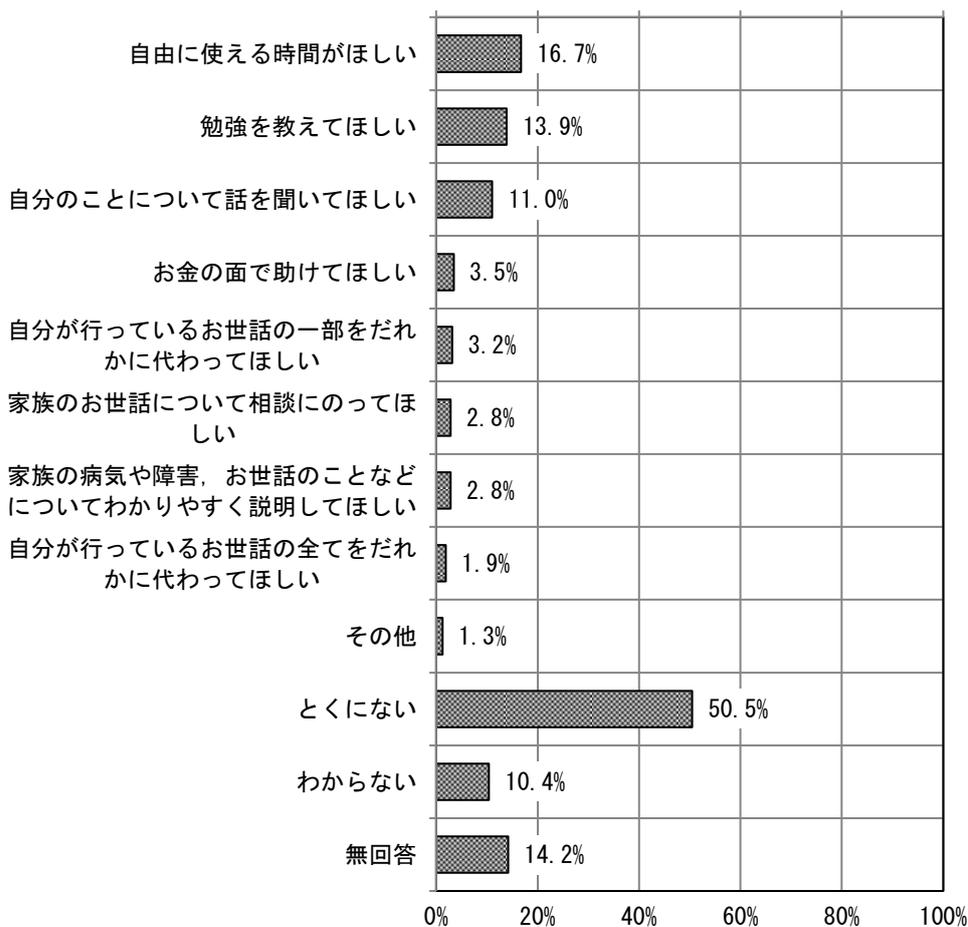
(7) 世話について感じていること

いずれの世代も「特に大変さは感じていない」が最も多い。

	体力の面で 大変	気持ちの 面で大変	時間の 余裕がない	特に大変さは 感じていない	無回答
小学生(n=317)	12.3	16.1	13.9	49.8	21.1
中学生(n=225)	12.0	14.2	15.1	38.2	33.8
高校生世代(n=37)	10.0	21.6	24.3	29.7	35.1
大学生世代(n=26)	7.7	26.9	30.8	34.6	23.1

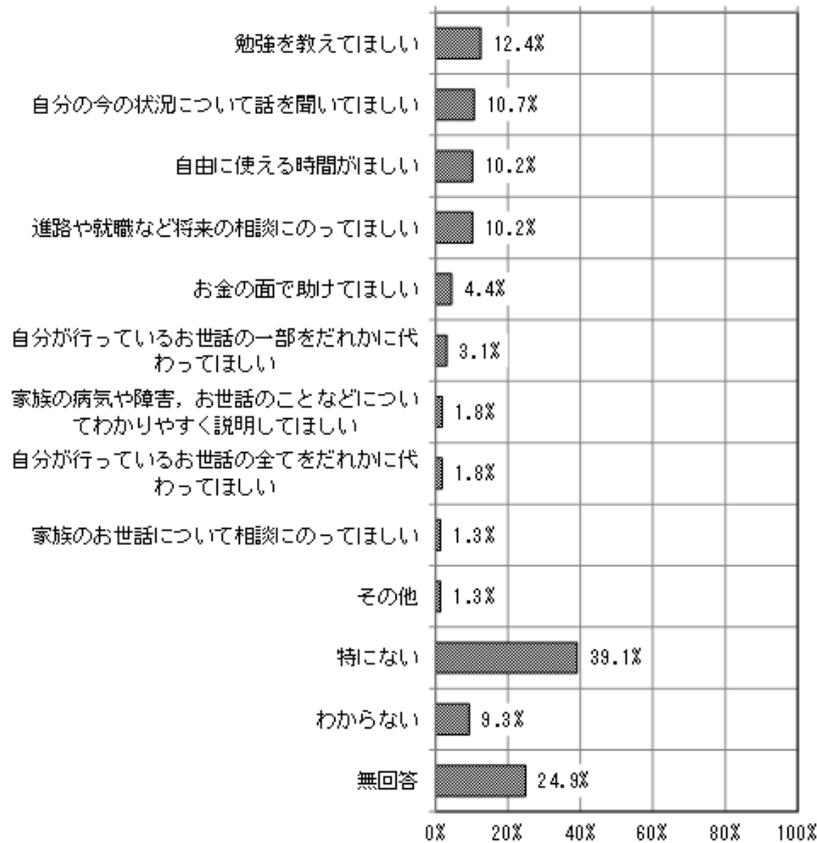
(8) 支援してほしいこと

小学生調査 n=317 「自由に使える時間がほしい」が最も多く、次いで「勉強を教えてほしい」、「自分のことについて話を聞いてほしい」となっている。

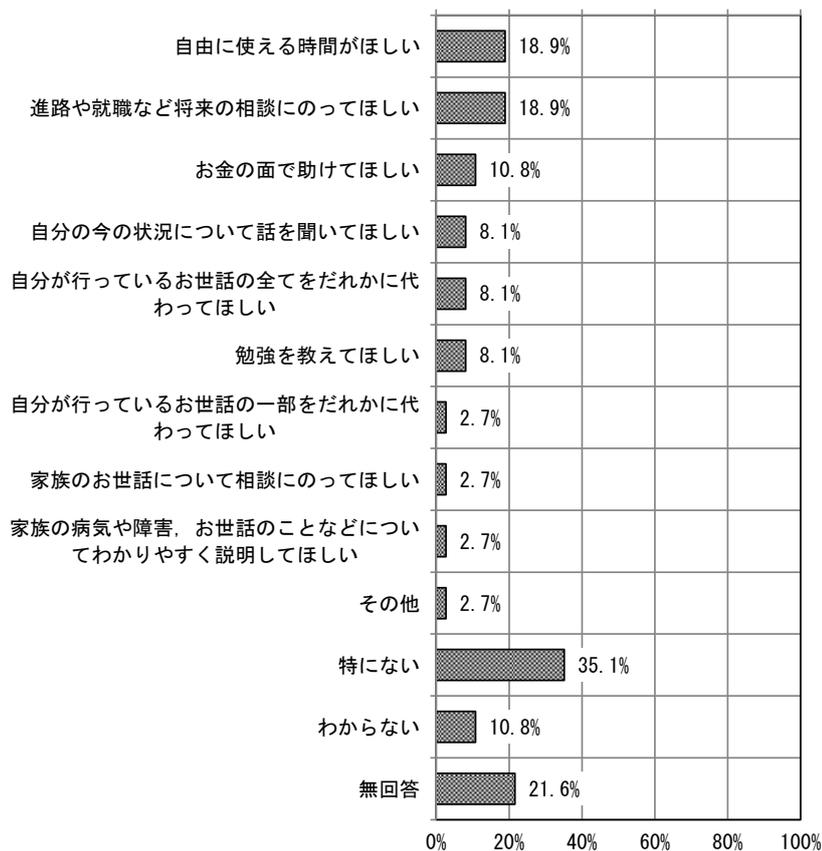


2 調査結果の概要

中学生調査 「勉強を教えてほしい」が最も多く、次いで「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」となっている。
n=225



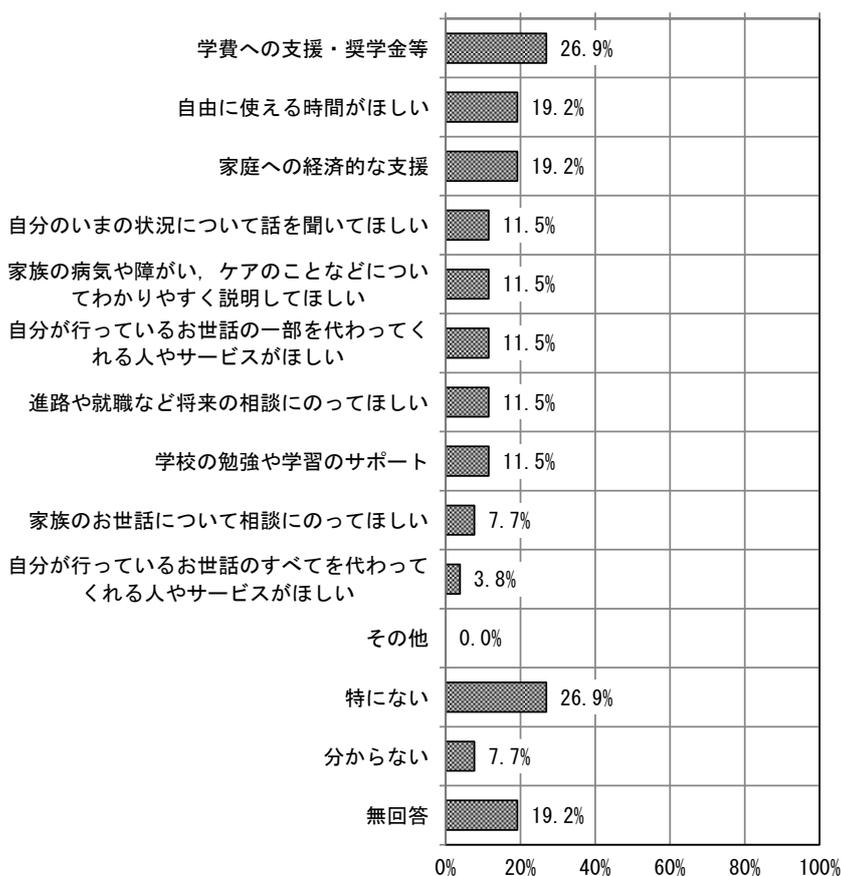
高校生世代調査 「自由に使える時間がほしい」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」が最も多く、次いで「お金の面で助けてほしい」となっている。
n=37



大学生世代調査

n=26

「学費への支援・奨学金等」が最も多く、「自由に使える時間がほしい」「家庭への経済的な支援」が次いでいる。



(9) 希望する相談方法

「自分のことについて話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた人にお聞きします。どのようなやり方で話や相談をしたいですか。

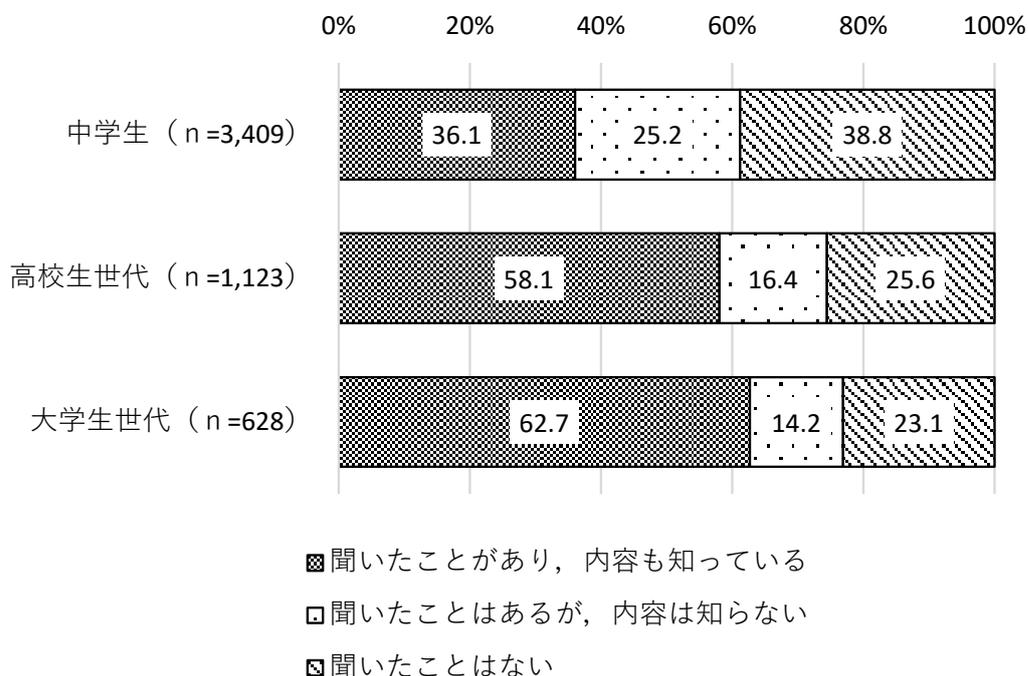
小学生，中学生，大学生世代では「直接会って」が最も多く，高校生世代では「その他」が最も多くなっている。

	直接会って	電話	SNS	電子メール	その他	無回答
小学生 (n=36)	86.1	16.7	25.0	8.3	5.6	0.0
中学生 (n=25)	68.0	44.0	24.0	12.0	0.0	0.0
高校生世代 (n=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
大学生世代 (n=3)	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

2 調査結果の概要

(10) ヤングケアラーという言葉の認知

中学生は「聞いたことはない」が最も多く、高校生世代，大学生世代は「聞いたことがあります、内容も知っている」が最も多い。



(11) ヤングケアラーの自覚

「お世話している」かつ「あてはまる」のは、回答者全数に対してそれぞれ、中学生では0.8%、高校生世代では0.4%、大学生世代では0.6%（過去にいたは0.3%）となっている。

世代	お世話している人の有無		ヤングケアラーにあてはまると思うか			
			あてはまる※	あてはまらない	わからない 答えたくない	無記入
中学生 (n=3,409)	いる	225人 6.6%	27人 0.8%	113人 3.3%	62人 1.8%	23人 0.7%
	いない	3,184人 93.4%	31人 0.9%	2,715人 79.6%	397人 11.6%	41人 1.2%
高校生 (n=1,123)	いる	37人 3.3%	5人 0.4%	15人 1.3%	12人 1.1%	5人 0.4%
	いない	1,086人 96.7%	7人 0.6%	1,011人 90.0%	65人 5.8%	3人 0.3%
大学生 (n=628)	現在いる	18人 2.9%	4人 0.6%	7人 1.1%	6人 1.0%	1人 0.2%
	現在は いないが 過去にいた	8人 1.3%	2人 0.3%	4人 0.6%	1人 0.2%	1人 0.2%
	いない	602人 95.9%	5人 0.8%	555人 88.4%	37人 5.9%	5人 0.8%

※ 大学生は「かつてあてはまった」を含む

3 調査のまとめ

世話をしている人が「いる」と回答したものは、小学生が11.1%（9人に1人）、中学生6.6%（15人に1人）、高校生世代3.3%（30人に1人）、大学生世代2.9%（34人に1人、過去にいた人を含めると4.1%）であった。国の調査結果と比べると、小中学生では高いものの、高校生・大学生世代では低くなっていて、小学生では1.7倍高く、大学生世代では約半分と大きく異なる。

小学生から高校生世代までは、「弟・妹（きょうだい）の世話」が多く、その背景として、祖父母との同居が少なく核家族が多いという調査結果にあわせ、現在の保育園や学童クラブの利用状況に現れているように共働き世帯等が多いことから、きょうだいの世話をする必要のあるものと推察できる。

世話の状況は、「ほぼ毎日している」者が最も多い一方で、「2時間未満」と短時間の者、「世話をすることによる生活への影響」や「世話のきつき」を感じていない者が多いことから、家族としての役割分担やお手伝いの範疇のものが多くと推察される。一方で、「1日4時間以上」のお世話をしている者や「きつきを感じている者」、具体的な「支援を求めている者」がいるため、そのような家庭への支援を研究し進めていく必要があると考える。

また、「今の自分の話を聞いてほしい」、「直接会って話を聞いてほしい」との声が多く、子どもが気軽に安心して相談できる場を研究し、設置していく必要がある。

ヤングケアラーの自覚については、各年代とも1%かそれ以下であったが、世話をしている人はいないと答えた中にも「ヤングケアラーにあてはまる」と回答した者がいることから、ひとり親や共働きで忙しい親に代わって家事やきょうだいの世話をしている人が答えにくかったことなどが推察される。

また、ヤングケアラーの認知は、国の調査時点より進んでいると思われるが、「どのような状態ならヤングケアラーなのか」、「どのような状況なら相談したほうがいいのか」というようなことが、子どもたちにも浸透していないと、自ら相談することには繋がらないため、子どもたちへのヤングケアラーの周知が必要である。

さらに、自由意見では、さまざまな意見を聞くことができ、子どもの意見を聞くことの重要性を改めて感じたほか、このような調査も自身を見つめ直し、辛い気持ちを吐き出す場の一つになることがわかった。

今回の調査により、子どもの生活状況やヤングケアラーの実態の概要が明らかになった。今後はより具体的な状況を把握し、困難を抱えた子ども・若者が安心して過ごせるよう、個々に応じた支援策を進めていく必要がある。

登録番号
(刊行物番号)
2022-277

調布市子どもの生活実態に関する調査報告書

発行日 令和5年3月
発行 調布市
編集 子ども生活部子ども政策課
〒182-8511
調布市小島町2-35-1
042-481-7757